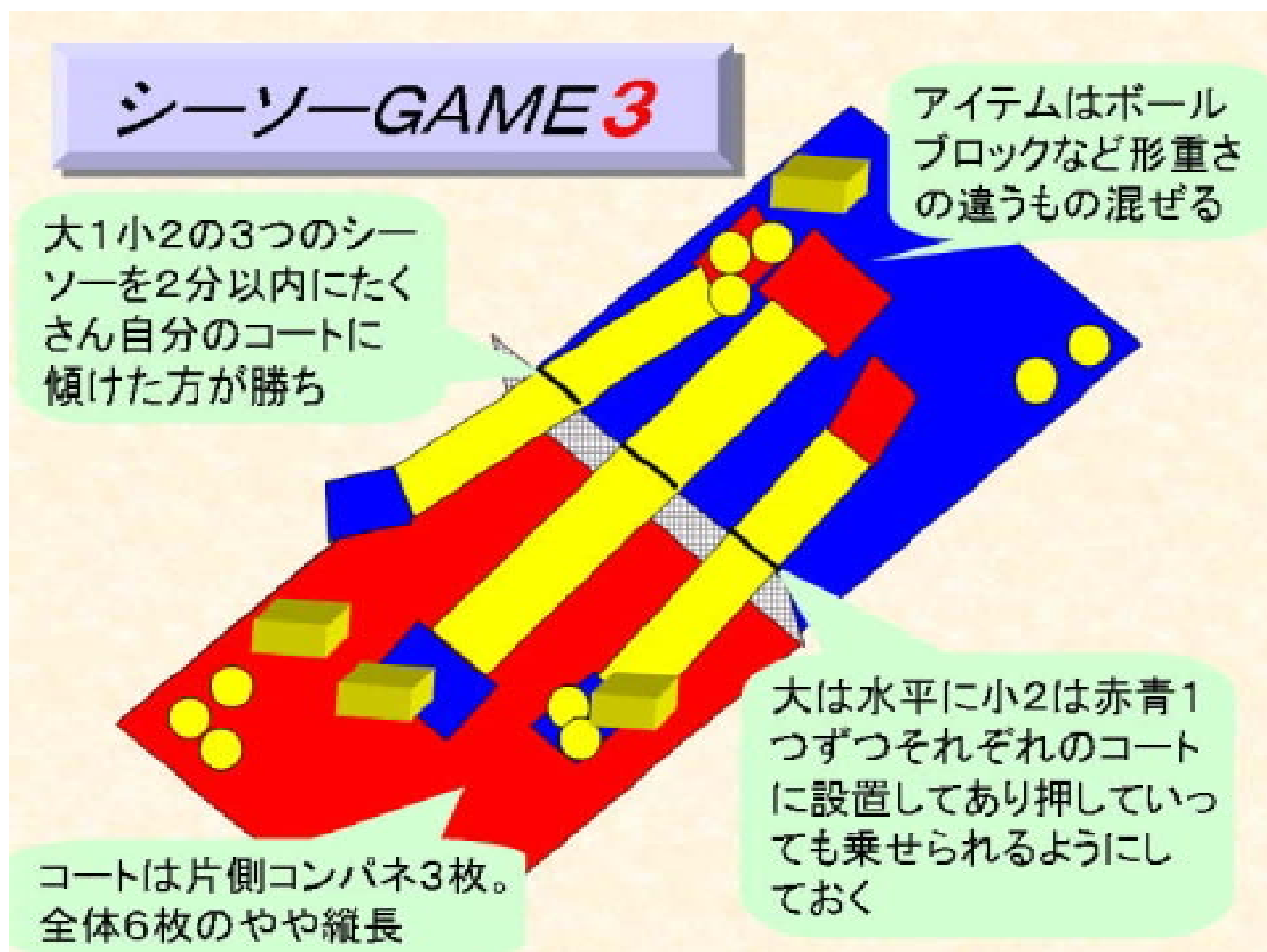


全国ロボコン長野県提案

長野県ロボコン実行委員会

1. AまたはB部門について

過日八戸市内の先生方との懇親会の中で以下のようなアイデアが出た。まだ細部まで検討してないたたき台段階で恐縮だが、検討材料の1つにさせていただければと考える。



特徴その他

- ・基本的に1台対1台を想定している。
 - ・見栄えがしてゲーム&結果が分かりやすい。
 - ・かなり簡単な仕組みから高度なロボまで敷居を広く取れる可能性がある
 - ・最終的に3つのうちたくさんシーソーを下げたチームが勝ち。
 - ・両者が仕切られているので接触によるトラブルもない。
 - ・シーソー製作の難しさが難点か
 - ・コンパネがプラダンで作成した大1、小2のシーソー。板に載せるか、一度入ったら落ちにくいようにネットにしておいてもいいかという意見
 - ・小シーソーは同じアイテムを1つずつ置き、それぞれに傾けておく。大シーソーは両側を紙筒で支えておき、倒してアイテムを入れると傾く仕掛け
 - ・発泡ボール、発泡レンガなど違った形。あるいは違った重さのアイテムがあるといい。
- 上の図ではB部門の大きさを想定しているが小型化すればAでも可能かなあとは思

2 . C 部門部 について

基本的な考え

C 部門をパフォーマンスと独自競技に分けます。C 1 とかでもいいのですが分かりにくくなるので、パフォーマンスロボット部門、オリジナル競技ロボット部門とかの名称ではどうか。それぞれ評価基準も分けると同時に公開し明確にする。

2 分間のビデオで B G M などフリーの（著作権上公開しても大丈夫なもの）ものに限
定、基本的に大会後全日中のサーバーで動画資料として公開できるようにしたい。これが蓄積すればアクセスも格段に増え、全日中のアピールにもなるし、貴重な資料となっていく。注目度も上がる。

また勝ち上がり大会ではないので、各県枠をもっと大きくし（10 チームとか）、一定自由にエントリーできるようにしたい。

作品をブロック大会と全国と同時に送付してもらい、全国は事前に審査して入賞を決めてしまう。Web に出せば審査員の先生方が一同に集まる必要も減る。全国大会では入賞者に実際にロボットを持ってきてもらい、デモンストレーションができればおもしろい。

終了後、映像 D V D を教材メーカーなどと共同、製作し、安価で全国に出せるようにする。そのためにも著作権処理ができるようにしておきたい
（著作権処理も学習の一部として行いたい）

各部門と評価基準案。

（1）パフォーマンスロボット部門

- ・ダンスや作業等でパフォーマンスを魅せるロボットを紹介

評価基準

機構技術：ロボットとしての技術的完成度の高さ

独創性：オリジナルのアイデアがどれだけ盛り込まれているか

ユニーク：見せる部分や動きのユニークさ、パフォーマンス度

デザイン：デザイン的な完成度

（2）オリジナル競技ロボット部門

- ・全国競技とは違うオリジナル競技に取り組んでいるロボットを紹介

機構技術：ロボットとしての技術的完成度の高さ

独創性：オリジナルのアイデアがどれだけ盛り込まれているか

競技力：その競技での競技能力の高さ

デザイン：デザイン的な完成度

C 部門のビデオ処理、Web アップなどについては長野ロボコンチームで技術レベルが高いスタッフが何人かいますので、私含めて長野チームで担当してもいいと考えています。長野の試みや技術が全国の皆さんの発展に少しでもお役に立てば幸いです。

3 . A、 B 部門の改善について

(1) 審査基準の明確化

ロボットの審査基準（競技規格ではなく）を全国で統一する。各賞の審査についてもこれに基づいて行い、明確化できるようにする。

機構技術：ロボットとしての技術的完成度の高さ

独創性：オリジナルのアイデアがどれだけ盛り込まれているか

競技力：その競技での競技能力の高さ

デザイン：デザイン的な完成度

さらに A - 2 だとチームワークの項目を追加

(2) 審査員推薦枠の設置

上記審査基準に従い、予選段階から決勝には、勝ち上がりチーム数と同数で、負けてはしまったが、上記基準の評価では高いロボットを予選コートの審査員推薦枠としてあげる。決勝トーナメントは勝ち上がりチームと審査員特別推薦チームの一発勝負が良い。これにより得点力のあるロボットに加え、独創的、デザイン的に優れたロボットが上がってくる可能性がある。同様に上の大会にも審査員推薦枠を設け、勝ち上がりチームに加え審査員推薦チームを追加する。勝ち上がり 2 チーム、審査員推薦 1 ないし 2。

これにより各地区からのチーム数は増加するが、会場が来年変わり広くなればコートも複数取れ可能にはなると考える。

勝利至上主義ではない、といっても小手先の賞の形だけ変えても意味がない。こうしたシステム的な変更をし、実際に独創性あふれるロボットが全国の場に姿を見せるようになるべきではないか。

なお、長野ロボコンでは校内特許制度による試合のハンディポイントおよび各賞との連動を実施しているが、まだ全国展開には練り上げる余地を感じている。しかし将来的には創意工夫の明確化、知的財産についての国家戦略にも絡み、ぜひ実現したと考えている。

(3) 表彰について

大臣賞などすごい賞なのだけど、通常のロボコン大会の賞と違いイメージができない。そこで折衷案として、現在の学会賞と一緒にロボット大賞などロボコン部門独自の賞状も一緒に出せないか（しっかりした印刷のものでなく、ケント紙へのカラープリンターでの印刷でも十分価値がある。こちらは主催の全日中会長名が良いか）ものづくりとの兼ね合いもあり難しい部分もあると思うが。

つまりロボット大賞なら、ロボット大賞というロボコン部門の賞状と大臣賞の賞状が 2 枚いき、メインの表彰は大臣賞。こうすることで大臣賞がどんな位置づけの賞なのか分かりやすく、またあげるものも低予算で増やせ、もらう方もうれしくなる。

優勝が得点賞、という発想は勝利至上主義の弊害をなくすために出てきたのであると考えるが、トーナメントの 1 位には 1 位の価値がある。それを分かりにくくして価値を下げる（語弊があったら失礼します）より、優勝は優勝にしておき、他の賞の価値を高める方向で検討をしたらどうか。上の 2 枚賞状で優勝と一緒に賞より、ロボット大賞やアイデア賞につく大臣賞などの方が上の賞としてつくなど。生徒側でももらうものも増えるし、上記の審査員推薦枠と連動させると、お互いに悪くはない提案ではあると思うが、

以上、練られていない部分も多いですが、28日の検討会の参考になれば幸いです。